

塾報しゅうめい

第3号

平成24年2月10日
発行 塾長 上谷 恭範
〒 111-0052
台東区柳橋1-26-3
TEL 03(3862)9218



入試合格速報

- 国府台女子学院小学校部
- 昭和学院小学校
- 渋谷教育学園幕張中学校
- 開智中学校
- 市川中学校
- 昭和学院中学校
- 秀明八千代中学校
- 早稲田中学校
- 日本大学第一中学校
- 文京学院大学女子中学校
- 千代田区立九段中等教育学校
- 郁文館中学校
- 佼成学園女子中学校
- 城西大附属城西中学校
- 京華中学校

(2月6日現在 小・中学校のみ)
(以降の中学と高校の結果につきましては次号の塾報で発表致します)

そして受験生、保護者の皆様、本当にお疲れさまでした



- 合格者の皆さんおめでとう！
- 足立学園中
- 駒込学園中
- 聖徳大附属女子中
- 昭和学院中
- 八千代松陰中
- 秀明八千代中
- 京北中
- 東海大付属浦安中
- 郁文館中
- 九段中等教育学校

(23年度の結果)

高校受験生への最終アドバイス

柴田 圭

入試は志望校の『合格点』を取ればよい

高校受験生に向けて、「入試までのトレーニング法」を紹介し
ます。事前の準備として、過去問は最低でも5か年分を2〜3回
くり返し解くことが必要です。その際、「問題全体を見渡す」→
「解けそうな問題から解く」→「最後の10分間で見直しをする」
心構えで臨むようにしましょう。

入試の目標は、満点を取るものではありません。「合格点」を
クリアするために、多くの基本問題を確実に解き、点数を少しす
積み重ねることを意識することです。

また、「時間配分」には特に気を付けて、3分程度考えて、解け
そうもないと判断した問題は、「捨てる」こととして、頭を切り
替えることが大切です。

受験生にとって、入試当日の緊張感、計りようもない独特の
ものです。そのため、「解答欄を間違える」「質問文を読み違える」
など、今までに決まらなかった「ミス」が発生する可能性が高い
です。入試は「心理戦」の一面もあるので、周囲の受験生の動作に
惑わされることなく、できるだけ平常心を維持することに努めま
しょう。

『できる できる 必ずできる』自分自身に暗示をかけながら、
当日にベストの力を十分に発揮できるよう、健康管理にも配慮しな
がら頑張りましょう。皆さんの健闘を祈ります。修明塾の全ての先
生たちは、最後までしっかりと応援し、サポートします。

「残り五分あれば」

塾長 上谷 恭範

試験終了時のフナーが鳴るまであきらめてはならない

「もう五分早ければと思うと、その五分間が運命を支配するかも
知れんと思うと、私の遺徳は胸の中で湧き返った。」

(久米正雄著「受験生の手記」より)

私達には行き詰った時、ふとヒントが浮んだり、記憶がよみがえ
ることがある。だから最後まであきらめてはならないのだ。試験と
いうのはその時間内にその問題を解いて合格点を取らなければ
ならないのであって、いくら多くの知識があってもその制限時間内
に解答用紙に正確に書いてなければ合格点はもらえない。
試験は集中力と時間との闘いである。

第14回「親と子と教師のサロン」

コンサート開催にあたって

上谷 修一郎

3月3日に開催致します第14回親と子と教師のサロンについて
ご案内申し上げます。

今回はソプラノ歌手湯浅桃子さんと日本フィルハーモニー交響楽団の
皆様をお招きして歌曲と弦楽四重奏のコンサートを中村学園のフェニッ
クスホールにて開催することに致しました。

私は日本フィルハーモニー交響楽団の武蔵野市における地域のコンサ
ートのお手伝いをしており、その御縁もあって今回のコンサートが実現
することになりましたが、何度か耳にしたことがある彼らの演奏は大変
に素晴らしいものです。湯浅桃子さんについてはもしかしたら説明する
必要がないかもしれませんが、桃子さんは東京芸術大学でオペラと声楽に
ついて学ばれた後、ボストンに留学し、2010年に行われた第79回
日本音楽コンクール声楽部門にて第3位を受賞するなど華々しい活躍を
しておられます。以前聞いたモーツアルトの『魔笛』における夜の女王
のアリアは美しさと激しさの同居した圧倒的迫力に満ちていたことが
思い出されます。又、普段は桂冠指揮者小林研一郎さんの指揮を中心
にオーケストラとして演奏をされている日本フィルハーモニーの皆様、
三好明子(ヴァイオリン)、遠藤直子(ヴァイオリン)、山下進三(ヴィ
オラ)、大石修(チェロ)の四人の方々の弦楽四重奏のアンサンブルは実
に見事です。ベートーヴェンの中期の弦楽四重奏第9番を聞いた時には、
その重厚なドイツ的な響きに感動しました。彼らの演奏はまさに「本物」
、「いいひと」、「いいもの」に触れる教育サロンの場を提供することを目
的とした、親と子と教師のサロンの理念に適合しているものといえます。

今回のコンサートでは「音楽の玉手箱」と題しまして、第一部では
モーツアルトの「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」やハイドンの
「皇帝」、ヴィヴァルディの「四季」等から皆様の聞いたことがある楽章
を弦楽四重奏でお届け致します。桃子さんは先程のモーツアルトの夜の
女王のアリア「復讐の心は地獄のように燃え」を筆頭にサティの「あな
たが欲しい」、メンデルソーンの「歌の翼」、フォーレの「マンドリン」、
ウェバー「オペラ座の怪人」より「スینگ・オブ・ミー」等これも皆
様の馴染みのある曲を歌います。休憩をはさんだ後の第二部ではまさに
この時期にちなんだ曲、モーツアルトの弦楽四重奏第14番「春」を演
奏致します。今回のサロンはプロの音楽家の方々によるコンサートでは
ありませんが、日頃の皆様に対する感謝の意を表する意味もありますので、
全て無料でご提供致します。是非ふるってご参加いただけるようお願い
申し上げます。

第14回「親と子と教師による学びのサロン」
ソプラノ歌手 湯浅桃子さんと
日本フィルによる弦楽四重奏「音楽の玉手箱」

日時 2012年3月3日 14時～16時（開場13時）
場所 中村学園フェニックスホール
（東京都江東区清澄2-3-15）
都営地下鉄大江戸線・半蔵門線「清澄白河駅」下車徒歩3分
※どなたでも無料でご参加できます。

出演者（敬称略）

- 歌曲およびアリア
 - ・湯浅桃子（ソプラノ）
 - ・矢野里奈（ピアノ）
- ◆ 弦楽四重奏：日本フィルハーモニー交響楽団
 - ・三好明子（ヴァイオリン）
 - ・遠藤直子（ヴァイオリン）
 - ・山下進三（ヴァイオリン）
 - ・大石修（チェロ）

プログラム

- ◎ 弦楽四重奏
 - ・アイネクライネナハトムジークより（モーツァルト）（ハイドン）
 - ・皇帝より第2楽章（ヴィヴァルディ）
 - ・四季より春（エルガー）
 - ・愛のあいさつ（ドヴォルザーク）
 - ・ユーモレスク（日本民謡）
 - ・おてもやん（クライスラー）
 - ・愛の悲しみ、愛の喜び（クライスラー）
 - ◎ 桃子さんのコーナー
 - ・からたちの花（山田耕筰）
 - ・マンドリン（フォーレ）
 - ・さくら横町（中田喜直）
 - ・歌の翼に（メンデルスゾーン）
 - ・あなたが欲しい（サティ）
 - ・シンク・オブ・ミー／ミュージカル『オペラ座の怪人』より（ウェバー）
 - ・私のお父さん／オペラ『ジャンニ・スキッキ』より（ブッチーニ）
 - ・復讐の心は地獄のように燃え
 - ／オペラ『魔笛』より（モーツァルト）
- 休憩
- ・弦楽四重奏曲「春」（モーツァルト）
- ※一部プログラムが変更になる場合がございます。御了承下さい。



その他詳細につきましては修明学園本部までご連絡ください。

03-3862-9218

シユタイナー教育と音楽

執筆 上谷恭範

私がヨーロッパの教育視察に出向いたのは、昭和天皇の崩御された年の平成元年五月末から六月初めにかけての十二日間である。当時、私はシユタイナー教育に大変興味をいだき、早稲田大学教授（当時）子安美知子先生の「ミュンヘンの小学生」「ミュンヘンの中学生」の本の中で、紹介されたシユタイナー教育に感銘を受け、私の目で体験したいとの思いが募り、主にチューリッヒ、ミュンヘン、フランクフルト三都市のシユタイナー教育に目標をしばった。その他、ロンドンのトーマス・ジュニアスクールとセント・ジエームズ・スクール、そしてジュネーブのクーテリエ・スクールの計六校の教育視察が私の教育理念にどれほどの影響を与えたか、について、私の上梓した「九年制小学校論」（ゆまに書房 平成二年三月二十四日版）に詳細に著してある。

今回は、シユタイナー教育での音楽とオイリュトミーについてだけ述べておく。シユタイナー学校で教える音楽とは、人間の発展の過程で、それに伴うものとしての音楽である。楽器はすべて自分を表現するための道具である。楽器を上手く演奏することを学ぶのではなく、自分を表現する方法として、演奏の技術を学ぶものである。歌、声楽も同じである。唄うことによって、自分を表現するのである。

（バーゼルにあるルドルフ・シユタイナー・シユールのヘル先生のお話から）
一、オイリュトミーはシユタイナー教育において特に重要な意味を持つており、教育理念そのものである。人間には（一）頭で理解する部分（考える部分）、（二）体で理解する部分（動く部分）、（三）心で理解する部分（感情の部分）、の三つの部分があり、この三つの部分をコントロールしているもの、三つの上に存在して三つを統一しているものが「私」「自分のエゴ」である。

オイリュトミーを一言で言つと、「動作によって創る芸術」である。オイリュトミーの行われる教室はバレエの練習場を思わせる教室で「ピアノが一台置かれている他は何もない。生徒は25人くらい、小学低学年から14～15歳までの生徒。先生は二人、音楽を担当する先生と、「リフレックスするよう」に、体の力を抜いて」と言つて、体のさまざまな動きの実技を指導する先生。心と体と感情が一つになることによつて、自分自身を素直に表現し、解放することができる。子どもは「大きく上へ」と言つて伸びさせると、本当に自分は大きくなったような感じになる。生徒が長い時間緊張を強いられたり、精神的に不安定になったりした時に、自分自身を取り戻す、自分自身に帰るため、つまり自分自身を解放することに意義がある。

オイリュトミーは、体の動き（舞踊）によつて自己の「内なるもの」を表現しようとするもので意識して自己を表現しようとするものではない。木が自然に枝葉を伸ばすように、花が自然に開くように、宇宙全体のリズムを自分の内なるものと合致させることが大事である。（フランクフルトにあるライエ・ウルドルフ・シユールのターナー先生のお話から）

最後に「今の（平成元年六月一日現在）日本に足りないものは何だと思いませんか？」と私が尋ねると、ターナー先生は一言「詩人です」とお答えになった。

追記、「九年制小学校論 シユタイナー十二ツボン」の本は

全教室に置いてあります。読みたい方は、各教室の教師にお申し出ください。

音楽は心の薬

谷本 美和

私は幼いころから音楽（特に歌）が大好きでした。小学校で音楽の教師をしていた父方の祖父、幼稚園教諭をしていた母方の祖母、後で聞いた話では、本気で歌手を目指していた!?という父。いつもだれかの歌声が聴こえてくる中で育ったのでもちろん私も音楽好き。楽しい時も悲しい時も怒っている時もうれしい時も感情を表現できる音楽って本当に素敵だと思えます。

たくさんあるクラシックの中でも、私はモーツァルトの歌曲が好きです。歌っていると楽しい気分になり、ストリスが解消されます。モーツァルトの音楽はよく音楽療法に用いられ、CDが発売されるほど、とても健康に良いと言われています。体に良い高周波をたくさん含んでいて、脳を刺激するのだそうです。人間だけではなく、植物や家畜にも効果があり、トマトに聴かせると糖度が高くなったり、豚に聴かせるとストリスが溜まらず、上質な脂のやわらかいお肉になる。と、テレビで話しているのを見たことがあります。音楽には目に見えない不思議な力がありますね。みなさんも、仕事や子育て、試験勉強に疲れを感じたときは、モーツァルトでなくても構いません、自分の好きな音楽を聴いたり、歌ったりすることで心を解きほぐし、音楽の不思議な力を脳や体にたくさん浴びてみてください。リフレッシュでき、また新たに頑張れるはずです。

3月3日の演奏会、楽しみにしています。みんなで参加し、みんなで心と身を元気にしてあげましょう。

行事予定

- 2月10日（金） 東京私立高一一般・併願入試
- 2月23日（木） 都立高一一般入試
- 2月29日（水） 都立高合格発表
- 修明塾 後期授業終了
- 3月1日（木） 修明塾新年度スタート
- 3月3日（土） 第14回親と子と教師のサロン
「オペラ歌手湯浅桃子さんと日本フィルによる」コンサート
- 3月9日（金） 都立高後期・二次募集入試